

平成21年度 学校自己評価システムシート (県立羽生実業高等学校)

目指す学校像 **社会に有為な産業人の育成**
 (専門的な知識・技術及び規範意識を身につけた、社会に貢献できる生徒を育てる)

- 重点目標
- 1 学力向上を目指した授業の工夫・改善
 - 2 専門高校の特色を生かした地域に開かれた学校づくり
 - 3 組織的な生徒指導による規範意識の定着
 - 4 系統的できめ細かな進路指導の推進
 - 5 部活動の活性化

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4	名
	生徒	0	名
	事務局(教職員)	8	名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価							学校関係者評価	
年度目標				年度評価(2月1日現在)			実施日 22年3月2日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望	
1	<ul style="list-style-type: none"> 授業に対する興味・関心が乏しく、基礎学力が不足している生徒がいる。その結果、欠点を保有してしまい、そのことが原因での中途退学者がいる。 チャイム着席、授業時の机上の整理等ができていない生徒がいる。 中途退学者が増加した。 資格取得に向けて努力する生徒が多く、教員の指導も熱心に行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①基礎学力の定着を図り、分かる授業や、学力を伸ばす授業のための工夫、改善 ②欠点保有者の減少 ③中途退学者の減少 ④資格取得者数の増加 	<ul style="list-style-type: none"> 授業では、資料、視聴覚教材等を活用し興味・関心を引き出す。また、中学の学習内容からの基礎・基本を徹底し学力の定着を図る。併せて授業規律を確保する。 教務部が中心になって、長期休業中の欠点保有者対象の補習を組織的に行う。 成績不振者、長欠者等の生徒情報を共有し、関係教科と学年や保健室が連携して生活習慣の改善を促す。 資格取得に向けた補習、小テスト、レポート提出を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 12年生の12学期における欠点保有者割合が平均20%以内で、3年生は10%以内。 チャイム着席、机上の準備・整理ができた。 中途退学者が前年度比30%以上減少した。 資格取得者数が増加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ①基礎学力の定着を目指した学び直しについての検討が始まった。 ②欠点保有者割合が12年生の12学期では平均25%、3年生は12%であったが、成績不振者に対する課題、補習が大部分の科目で実施された。 ③教職員の中退防止の意識の向上が英数・英習を含む授業展開・指導方法の工夫・改善につながった。さらに小テスト、考査対策プリントの実施、補習、学級担任のきめ細かい指導等により、中途退学者は前年比36%減少した。 ④8割以上の保護者が、資格取得等に向けた補習の実施を評価している中、検定合格者が増加した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ①②生徒の興味関心を高めるために教科内の共通理解を図り、授業内容・指導方法を工夫する。 ①②③考査前の小テストの実施、補習を充実させる。さらに家庭学習の習慣化を図る。 ①②授業時間確保のため、授業代替を行える環境整備を進める。 ①④学科再編やコース制・教育課程の見直しを検討する。 ①保護者の85%、生徒の65%が基礎学力の定着に向けた取組を求め、学校をあげて「学び直し」について検討し実践していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎年中途退学者が多いがなぜか。 中途退学を減らすようにさらに努力して欲しい。
2	<ul style="list-style-type: none"> HP等の広報活動の充実や、全教職員による中学校訪問等により、学校説明会、体験入学の参加者が増加している。 地域の中学生の減少などにより、生徒募集が厳しい状況にあり、目的意識を持った生徒の確保に向けて、学校を挙げて取り組む必要がある。 スクールショップ、小中学生対象の農業体験講座等により地域に貢献している。 創立90周年記念行事の実施を予定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ①広報活動手段(HP、学校案内、リーフレット、「羽実だより」等)の改善・充実 ②募集定員の確保 ③地域への貢献 ④90周年記念行事の円滑な実施 	<ul style="list-style-type: none"> 豊富な写真を掲載するなどHPをさらに充実させる。また、運動部の活躍を特集した中学生向け広報紙を新たに発行する。 中学生対象のアンケートにより本校へのニーズと広報活動の成果を把握する。 全教職員と管理職による重層的な中学校訪問や、生徒による中学生対象の本校教育活動のプレゼンを行う。 従来のスクールショップや農業体験講座を改善し充実させ、さらに市内対象の公開講座を実施する。 学校、PTA、同窓会の協力により90周年行事の準備・運営を円滑に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 広報活動が充実し中学生に情報が浸透した。 中学校訪問により各科の特色を伝えられ、生徒募集に成果が現れた。 スクールショップや農業体験講座や新規の開放講座の来客及び受講者に満足感を与えた。 90周年行事を計画どおり実施できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①「羽実だより」は写真を増やす等見やすさの向上を図った。また、部活動の記事を多くし、活動状況をPRした。 ①HPには「入試案内」「中学生の方へ」等、受験生用の入り口を開設した。 ②70中学校に年3回、全職員が分担任で本校の情報を提供した。さらに、学校説明会を2回追加実施し、生徒募集に努めたが、前期募集では2学科において、定員を満たすことができなかった。 ③農業科、商業科による新規の公開講座は、地域の参加者から大好評を得た。 ④90周年記念式典は保護者、教職員の協力と生徒の頑張りで無事終了した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ①「羽実だより」については、配布回数・方法を検討する。その他の広報部行事も、より多くの教職員の協力が得られる体制づくりを図る。 ①HPは専任スタッフへの移行を行い、閲覧カウンタの設定や同窓会ページを作成する。 ②全職員による生徒募集活動、体験入学、学校説明会等で本校のPRをさらに充実し、来年度は、全学科の前期募集において定員を確保する。 ③公開講座の継続、内容の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 商業系の学科の学習内容を中学校に細かく説明する必要があるのではないか。 求める生徒像をはっきりさせて欲しい。 中学校は、近くの高校に受からない生徒を羽実に向けている。商業科の希望が全体的に厳しい中、何をPRしていくか、見方を変え学科の商品化をし募集するべき。
3	<ul style="list-style-type: none"> 頭髮・服装違反、遅刻は減少しつつあるが、さらに整音指導、遅刻指導を充実させるとともに指導体制の確立が必要である。 ゴミの処理等のマナーや交通法規等のルールを守る意識が低い生徒がいる。 清掃指導について教職員の共通理解と実践が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ①遅刻の減少 ②整音指導の浸透 ③清掃指導方法の共通理解と実践 ④教員の指導体制の構築 	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻統計を参考に教員の共通認識の基、遅刻指導を行う。 従来の整音指導の取組に加え、端正な制服着用(スカート丈、ネクタイ、リボン等)についても、「外部からの目」を意識させ、日頃から指導する。 美化委員会を活用し環境美化意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻統計により遅刻者の減少が確認できた。 整音指導が浸透し生徒に変化が見られた。 ゴミの分別ができ、校内外のゴミの散乱が減少した。 教員の指導体制の構築ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①各学年の指導や全校指導により、遅刻者数は前年度比2割程度減少した。 ②整音指導については、ネクタイ・リボンの着用は定着したが、女子スカート丈、男子髪型等の指導は不十分である。 ③間接行動に対する指導件数は前年度比4割減少した。 ④ゴミ処理・分別は改善されている。 ④教員の組織的指導体制が構築できたといえない。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ①定期的に全校指導や校内巡回指導などを実施し、生徒の規範意識を更に向上させる。 ②生徒の日常の意識は低いため、マナー教室を開き、「見られている」ことへの意識を高める。 ③整音指導には、生徒指導部を中心に担任、教科、学年で一体となった組織的指導体制が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 企業も学校も同じく、整音、清掃などの基本を大切にすることが必要。
4	<ul style="list-style-type: none"> 進路意識が低く、目標が持てず、主体的に進路選択ができない生徒がいる。 厳しい雇用情勢の中、就職希望者が半数以上である。マナーやコミュニケーション能力の定着を図る必要がある。 インターンシップにより望ましい職業観や勤労観を身につけさせる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒の進路意識の喚起 ②就職に向けたマナーの定着、コミュニケーション能力の向上 ③インターンシップの円滑な実施 	<ul style="list-style-type: none"> 学年と進路指導部の連携により、進路関係の日程や行動予定を周知し、意識を高め万全の準備をさせる。さらに、学年に応じ職場見学や将来についての作文等を実施する。 日常や職員室の入退室時でのあいさつを指導する。 学校と事業所の連絡を密に行い、インターンシップに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年生の進路決定率が95%以上。 進路意識が高まり生活態度にも変化が見られる。 自分から大きな声であいさつできる生徒が増加した。 インターンシップにより職業観を芽生えさせ、高校生活を改善する生徒が増加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ①就職難の中、進学も含めた3年生の進路決定率は83%である。3学年と進路指導部を挙げて、未決定者に対して粘り強く指導助言を与えている。 ①各学年に応じた進路ガイダンスや進路体験発表会等により、進路意識が向上した。 ②マナーの定着、コミュニケーション能力の向上は、まだ十分達成されていない。 ③1年生全員参加のインターンシップでは、7割を超える生徒が進路を考える参考になったとの感想を持った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ①進路に関する全体の保護者会を行う必要がある。 ①企業開校をさらに進め、就職先の確保に努める。 ②就職難の中、基礎学力の定着、整音指導の徹底、コミュニケーション能力の習得が急務である。 ③今年度の進路を生かし、インターンシップを更に充実させ、将来について考えさせ、高校生活を充実させる契機とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学、短大進学率はどれくらいか。 高卒でも大卒に負けないぞという気持を持って頑張ってもらいたい。社会は競争、「負けないぞ」という気持が欲しい。6.7年頑張れば仕事を任せられるようになる。 農業にとってはインターンシップは年間を通してやって欲しい。 農業で努力・工夫して成功することにより、豊かさを手にすることができる。
5	<ul style="list-style-type: none"> 運動部、文化部とも熱心に活動している部活はあるが、全体的には活発とはいえない。 運動部の中には県大会に出場する部活もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ①部活動の活性化 ②部員の増加 	<ul style="list-style-type: none"> 運動部等の活躍を特集した中学生向け広報紙を校内にも配布し、活動をPRするとともに加入率上昇を目指す。 部活動に対する物的、人的支援を可能にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 部員が増加した。 公式戦、公式発表等に参加する部活が増加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ①運動部、文化部とも公式戦出場、公式発表等を行い、日々の活動の成果を出している。その中で、陸上部、野球部、卓球部、テニス部、放送部、舞踊部が県大会に出場した。 ②部員は増加していない。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ①②「学校だより」等で生徒向けに部活動を積極的にPRし、活性化を図る。 ①②運動部では、学校開放団体との交流を行う。 ①②顧問の指導時間確保 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動を活性化し、学校を元気にして欲しい。